

# 国語Iにおける話すことと聞くことの指導

藤 吉 和 彦

## 第一章 指導の動機とねらい

私は、今年度（平成二年度）の教科指導の重点として、話すことと聞くことの指導を取り上げ、実践してきた。私がこの指導に力を入れようと思ったのには三つの理由があった。

一つは、生徒達の話の仕方や聞く姿勢を見つめる中で、その指導の必要性を痛感したからである。授業の中で発問に対する答え方や、日々生活を共にする中で交わす会話の中で、の応対の仕方には不十分なものが数多くある。主語述語がはつきりしていなかったり、話の順序がバラバラで呼応がおかしくて、話の意図することがうまく伝わらないで悩んでいる生徒が多くいる。また、きちんと自分の考えを伝えたいと願いながらも、それができないで、もどかしさを感じている。中には自分の話し方に注意を向けなくて、あるいはそれを面倒に感じて、必要最小限の単語だけの返答をする生徒もいる。これでは話し方ということだけ

にとどまらず、ものの考え方も平板で短絡的なものにしてしまう恐れもあるのではないかと感じた。

一方、聞く姿勢に目を向けると、あるまじった時間、人の話に集中するという態度が不十分であり、またその練習を十分に積んできていないのが実態である。これは、絶えずいろいろな情報が耳に飛び込んでくる生活環境の中で、聞き流すという習慣を知らず知らず身につけているということに原因があるのではないかと推察される。

日常の言語生活の中で、これらの不十分な点を経験的に克服していく可能性はあるが、それは偶然に期待するところが多く、そこで得たものには誤りも含まれてくる。やはり国語の教科指導の中で、話すこと、聞くことを対象化し、意識的に学ばせ、その能力を高めさせることが必要であると改めて感じたのである。

二つめは、先の理由と深く関わっているが、自分のこれまでの教育実践が読解指導に偏りがちで、話すこと、聞くことという音声言語による言語活動の指導が疎かになって

いたという反省である。

そして三つめは、平成元年に学習指導要領が改定されたが、その中で音声言語による言語活動の指導の充実が取り上げられていることである。

私は今年度、一年生に「国語Ⅰを指導しているが、国語の「内容の取扱い」として次のように記されている。

・話し方や話し合いの学習を充実させるようにすること。

(表現の指導への配慮)

・文章の読解、鑑賞を深めるため、音読や朗読などを取り入れること。

・文章の読解、鑑賞に当たっても、話したり書いたりする機会をできるだけだけ設け、表現力、理解力の向上に役立つようにすること。(理解の指導への配慮)

この学習指導要領の改定は、広く社会の変化に応じたものとしてなされたものであろうし、その中で音声言語教育が強調されるのもいくつかの背景のあることであろう。一つには、人々の生活意識や価値観の多様化に伴い、集団生活をより明確なものにしていく必要が生まれたことが考えられる。また、直接的には話し言葉の乱れ、聞く姿勢や能力の不十分さを鑑みた上で、その指導の重要性が注目されたとも考えられる。

以上の三つの理由から、私は話すことと聞くことの指導に取り組むことにした。ねらいとしたことは、話すことと

聞くことを教科指導の中で意識的に取り上げること、学習者に、話すことと聞くことを対象化してとらえさせ、それに常に意識を向けさせてその能力を高めさせることである。

## 第二章 学習者の、話すことと聞くことの意味の実態

この指導の対象となったのは一年生で、国語Ⅰの科目の中で指導をした。私はこの指導を始める前に学習者にアンケートという形で話すこと・聞くことの意味調査を行った。資料Ⅰに示したのがその集計結果である。私は三クラスを受け持ったが、アンケートは二クラス(男子三十五名、女子五十三名)を対象に行った。

この調査でまず注目すべきは、設問5で93%の生徒が話すことがうまくならないと思っていることである。にも関わらず設問3で明らかかなように78%の生徒が話し合いなどの場でなかなか自発的に発言できないという。その理由はいくつかがあるが、自信がなかったり恥ずかしいといった、場慣れしていないこと、あるいは自己の内面を表すことのためにめづらを感じていることが一つの大きな理由である。もう一つは、うまく自分の考えがまとまらないという、筋道立てて話すことの苦手が理由の多くに見られた。

また、うまく話すために必要なこととして設問7、8に見られるように、論理的に話すこと、話す時の態度、相手認識のあり方、言葉使いに注意していることがわかる。

## 「話すこと」「聞くこと」についてのアンケート

## 《話すことについて》

1. 今までに、あなたはどんな時に人前で話をしたことがありますか。具体的にあげて書いてください。

- ・選挙の立ち合い演説会
- ・クラスのLHRでの話し合い
- ・弁論大会
- ・全校集会での生徒会・委員会の発表
- ・研究発表
- ・クラス・部活動での自己紹介
- ・全校の前での作文発表・本の紹介
- ・国語の授業でのスピーチ
- ・音楽会の司会
- ・学年集会での意見発表
- ・文芸会での意見発表
- ・部活動で部長としての話

3. あなたはその話し合いにどんな態度でのぞみましたか。

	(男子)	(女子)
ア. 積極的に自分から意見を述べた。	14	5
イ. 指名されたら自分の意見を述べた。	21	44
ウ. 指名されても自分の意見が述べられなかった。	0	4

4. 3でイ、ウと答えた人に質問します。

なかなか発言できないのはなぜだと思いますか。思い浮かぶ理由をいくつでもいいので挙げてください。

(男子)	(女子)		
・自分の考えに自信がないから	6	・自分の考えがまとまらないから	9
・意見を言うのが恥ずかしいから	3	・意見を言うのが恥ずかしいから	8
・誰かが言ってくれるだろうと思うから	3	・自分の考えに自信がないから	8
・静かすぎて発表しにくい雰囲気だから	2	・みんなの考えと違っていたら嫌だから	8
・みんなの考えと違っていたら嫌だから	1	・自分の考えを上手に話せないから	4
・大勢の人の前で話すすと緊張するから	1	・静かすぎて発表しにくい雰囲気だから	3
・自分の意見がまとまらないから	1	・大勢の人の前で話すすと緊張するから	2
・自分の考えを上手に話せないから	1	・発表すると目立ってしまったら嫌だから	2
・意見を言いたくないから	1	・自分の意見を言いたくないから	2
		・自分の考えがつまらないものと思える	2
		・誰かが言ってくれるだろうと思うから	1

5. あなたは、自分が話をするのがうまくなりたいと思いますか。

	(男子)	(女子)
はい	31	51
いいえ	4	2

6. それぞれその理由は何ですか。

(男子)	(女子)		
・言いたいことを的確に伝えたいから	10	・言いたいことを的確に伝えたいから	18
・将来、社会に出たときに役に立つから	8	・将来、社会に出たときに役に立つから	8
・自分の意見ははっきり言いたいから	3	・自分の意見ははっきり言いたいから	5
・しっかりした人に見えるから	3	・うまく話せたほうが会話が楽しい	5
・人との付き合いがうまくいくから	2	・友達がたくさんできるから	5
・面接や何かの発表の時に困らないから	2	・面接や何かの発表の時に困らないから	4
・人に良い印象を与えたいから	1	・しっかりした人に見えるから	2
・人を説得するとき役に立つから	1	・人前で話すのが嫌でなくなるから	2
・口論で人に負けたくないから	1		

7. あなたは、自分の話し方で、気をつけていることがありますか。それはどういうことですか。

(男子)

- ・その場に応じて敬語を正しく使う 1 4
- ・人の気持を考えて話す 5
- ・大きな声ではっきり話す 4
- ・あがらないように冷静に話す 3
- ・下品な言葉を使わない 2
- ・面白く話して間をうまくとる 1
- ・筋道立てて話す 1
- ・ゆっくり話す 1
- ・話す態度をよくする 1

(女子)

- ・その場に応じて敬語を正しく使う 8
- ・筋道立てて話す 7
- ・下品な言葉を使わない 7
- ・大きな声ではっきり話す 5
- ・相手の気持を考えて話す 6
- ・語尾をはっきり発音して話す 6
- ・相手がわかりやすいように話す 4
- ・ゆっくり話す 4
- ・方言がでないように気をつける 4
- ・人の気持を考えて話す 3
- ・相手の方を見て話す 2
- ・命令口調で話さない 1
- ・一方的に話さない 1

8. 話をするうえで、大切なことは何だと思いますか。あなたが考える全てを挙げてください。

(男子)

- ・自分の言いたいことをはっきりさせる 5
- ・相手にわかるように話す 5
- ・相手の気持を考えて話す 5
- ・自分の考えをはっきり話す 4
- ・自分の考えを的確に伝える 4
- ・落ち着いてゆっくり話す 4
- ・その場に応じた話し方をする 3
- ・簡潔にまとめて話す 2
- ・はきはき話す 2
- ・相手の目を見て話す 1
- ・多少言葉足らずでも表情や目で伝える 1

(女子)

- ・相手にわかるように話す 1 2
- ・自分の言いたいことをはっきりさせる 1 2
- ・相手の気持を考えて話す 8
- ・自分の考えをはっきり話す 6
- ・大きな声ではっきり話す 5
- ・筋道立てて話す 4
- ・簡潔にまとめて話す 3
- ・要点をつかんで話す 2
- ・相手の目を見て話す 2
- ・相手の話も真面目に聞く 2
- ・前を見て話す 2
- ・熱意をこめて話す 2
- ・相手の興味ある話をする 1

9. 雑談と話し合いの場では、話をするときに、あなたの意識として何が違いますか。

(男子)

- 〈話し合い〉
- ・丁寧な言葉遣いをする 6
- ・考えをまとめてから話す 5
- ・緊張感がある 4
- ・真面目に話す 2
- ・自分の意見に責任がある 1
- 〈雑談〉
- ・気楽に話せる 8
- ・言いたいことが言える 5

(女子)

- 〈話し合い〉
- ・丁寧な言葉遣いをする 1 5
- ・考えをまとめてから話す 1 2
- ・真剣に考えて話す 1 9
- ・緊張感がある 5
- ・言葉を選んで話す 3
- ・堅苦しい感じがする 2
- 〈雑談〉
- ・気楽に話せる 1 6
- ・思ったことがすぐ言える 4
- ・話題が自由 3
- ・冗談を交える 2

10. 書き言葉と話し言葉とでは、どのように違うと思いますか。また、あなたが自分の気持ちを伝えるときに、書き言葉と話し言葉ではどのような違いがありますか。

(男子)	(女子)
<書き言葉>	<書き言葉>
・言葉遣いが丁寧になる	・言葉遣いが丁寧になる
・相手に直接会わないので気楽に書ける	・考えてから筋道立てて書けるのでより確かに
・考えがしつかり伝わる	・考えが伝わる
・自分の考えをまとめやすい	・何回でも見なおせる
・気持が伝わりにくい	・相手に直接会わないので気楽に書ける
・話すときよりよく考える	・表現しにくい部分が残る
・前置きがあって面倒	・後で消せる
・かたいイメージ	・余分な言葉がはいらない
<話し言葉>	・かたいイメージ
・感情が伝わる	<話し言葉>
・相手が目の前にいて緊張する	・感情もこめて気持が伝えやすい
・まわりくどくなる	・身振り表情でよりよく伝わる
・優しい感じ	・口に出すと取り返しがつかない
・言いたいことを100%言えない	・言いなおせないで緊張する
・「えっと」とかの余分な言葉がはいる	・多少文法的におかしくても伝わる
	・相手の反応がわかる
	・「えっと」とかの余分な言葉がはいる
	・声の強弱表情で強調できる

### <聞くことについて>

1. 「聞くこと」によって情報を得る手段には、どんなものがありますか。あなたの身の回りにあるものをすべて挙げてください。

- ・テレビ ・ラジオ ・電話 ・ステレオ ・CD ・校内放送 ・有線放送
- ・人の話 (友達との会話、先生の話、家族の話、噂話 など)

2. 人の話を聞いたときに、「わかった」と感じるのはどういう時ですか。相手の話し方について感じるごとと、自分の聞く姿勢に分けて答えてください。

#### (相手の話し方)

- ・要点がはっきりしていて筋道立てて話してもらえたとき
- ・例え話などを話のなかに盛り込んでわかりやすく話してもらえたとき
- ・気持をこめて丁寧に話してもらえたとき
- ・真剣に話してもらえたとき
- ・身振りや表情を豊かに話してもらえたとき
- ・興味深い話をしてもらえたとき
- ・はっきりした声で話してもらえたとき

#### (自分の聞く姿勢)

- ・一生懸命理解しようとするとき
- ・話の内容が頭のなかに想像できたとき
- ・その話に夢中になったとき
- ・真剣に聞いていたとき
- ・自分の考えと比べながら聞いていたとき
- ・話を聞きながら自分も考えていたとき
- ・話す人の目を見て聞いていたとき
- ・話の内容に興味を持ったとき
- ・話の内容が納得できたとき
- ・話をしている人の気持が汲み取れたとき
- ・落ち着いて冷静に話を聞いていたとき
- ・聞くことに集中していたとき

また、一方、設問10での話し言葉の特性については、言っ  
てしまったことは取り返しがつかないという一回性をあげ  
た生徒が多かった。また、言葉だけでなく表情や身振りを  
加えることで感情を込めやすいという点もあげている。

聞くことについては、充分な調査ではなかったが、この  
調査から理解の深淺が、聞く主体の、聞くことへの集中の  
度合いに左右されるという認識があること、そして集中す  
る状態は話し手の考えと自分の考えを比較しながら持つて  
聞くとか、相手に目を向けて話を聞くという時に得られる  
という理解をしていることがわかる。

### 第三章 話すことと聞くことの指導のありかた

#### 第一節 話すという言語活動の特性

話すという活動は表現の領域の中の一つの活動である。  
自分の意思を表現する方法には、言葉（あるいは意味付け  
された記号）による方法と、表情や態度といった身振りに  
よる方法が考えられる。複雑な内容を正確に表すためには  
言葉による方法が有効であるが、その言葉も書き言葉（文  
字言語）と話し言葉（音声言語）に分けられる。

それでは書き言葉で表現する場合と、話し言葉によるそ  
れとはどのような点が違うのであろうか。その違いを考えな  
がら話す活動の特性をあげてみると次の五点があると思う。

1. 表現方法という観点で見ると、書く活動では言葉の意

味や語配列による論理を頼りに表現するのに対して、話  
す活動では、それに身振り（表現や態度）、話す調子  
（強調やその時の感情）、間の取り方、その場の雰囲気  
というものが加わって表現される。だから文字にすれば  
同じ内容であっても相手には違ったニュアンスで伝わる  
ことがあり得る。

2. 相手認識という観点で見ると、書く活動では相手を予  
想しつつ表現するのに対して、話す活動は大概相手が目  
の前にいるので相手認識が明確である。相手の反応がよ  
くわかるので、充分に伝わっていないと判断される時に  
は言い直したりして理解を促すことができる。また、相  
手との共通認識の度合いが確認しやすいので省略した表  
現もできる。

3. 思考の過程という観点で見ると、書く活動では、表現  
しようとすることを一旦文字に表して対象化し、それを  
推敲する中で客観的な態度で自分の表現を確かめること  
ができる。これに対して話す活動では自分の表現を対象  
化しにくい。発語する前に頭の中で言葉によって考える  
という内言による思考に頼っていて表現される言葉とし  
ては一回限りのものである。

4. 時間的な観点で見ると、書く活動は表現を完結させる  
までに推敲する時間的余裕がある。これに対して話す活  
動では、特に対話や討論をしている時は自分の考えを表  
すまでの時間はごく短い時間であり、即時的である。

5. 使用する言葉の特性から見ると、書かれたものは文字として記録されるが、話し言葉の場合は、記録機器を使うか、文字に置かえない限りその場限りのもので記録性に乏しい。

## 第二節 話すことの指導と評価

話す活動の特性を考察した上で、話すことの指導のありかたを次のように方向づけしてみた。私は指導の柱を三つ設けた。

一つは、話す主体の、話すことへ取り組む姿勢の指導である。話すことに限らず、表現しようという衝動がどこから生まれてくるかを考えてみると次のような欲求によっていると思う。

1. あることがらに対する自分の考えや、相手に対する理解の度合いを正しく相手に伝えることによって、自分の立場を他者に理解してもらいたいという欲求（他者による自己受容の欲求）
2. 自分の目的に合うように他者の行動を変革させようという欲求（他者変革による自己目的達成）
3. 自分が得た情報を他者に伝えようという欲求（情報伝達の欲求）
4. 話すことや話し合うことによって自分の考えを明確にし、深い自己理解をはかりたいという欲求（自己確立の欲求）

5. 自分の好奇心や興味を満たすべく質問という形で他者に情報を求めようという欲求（知識欲）

おおよそこのような欲求によって人は表現に向かうと考える。そしてその欲求の度合いを意欲と呼ぶならば、まず話すことの指導においては、話したいという欲求を引き出し、その意欲を高めていく工夫が必要である。

二つめは、話をするまでの、構想の立て方の指導である。話すことの指導において特に力点をおくべきはこの点であると思う。話す特性の3、4で考察した通り、話す活動は一回限りの即時的な行為であるため、短時間に話の筋道を考えて話すという能力を高めないではならない。そのためには学習者の思考力を高めることが何より大切である。また話す特性の2をふまえた指導も重要で、話し合いなどの場では相手の考えと関連させて自分の話をするという練習も必要であると思う。

三つめは、話し方の技術の指導である。より効果的に相手に自分の考えを話すためには話す特性1をふまえた指導をすべきだと思う。そのためには話し方の違いによって聞き手に与える理解や効果がどう違ってくるかを認識させておく必要がある。その上で、話す調子、アクセントの置き方、間の取り方、身振りや表情によって、より効果的に話す技術の指導をすべきだと思う。

以上の三点を指導の柱として進めるが、その学習の評価をする上で特に大切なことは、学習を行ったその場で、あ

るいは途中で適切な指導、評価をしてやることである。話す特性5で考察した通り記録性に乏しいわけであるし、3で考えたように話すことそれ自体は対象化しにくいので、書くこと以上にすみやかな事後指導、評価をすべきであると考ええる。

### 第三節 聞くという言語活動の特性

理解には、読む活動と聞く活動の二つがある。ここでは聞く活動の特性について考察してみたい。

聞く活動には次に示した特性があると思う。

1. 理解のために使われる感覚器官という観点で見ると、読む活動は視覚によって、書かれた文字をとらえ、意味内容に結びつけて理解する。これに対して聞く活動は聴覚によって相手が話す言葉の音声をとらえ、意味内容に結びつけて理解する。

2. 理解の対象となる言葉の特性という観点で見ると、聞く活動は読む活動に比べてより一語一語に集中する必要がある。意味内容を理解することに意識を集中させるという点では読む活動も聞く活動も同じである。しかし、音声言語は、それが発せられた次の瞬間には消えているものであるから、集中力を断絶させずにいないと理解が十分にされないという点で、よりそれが要求される。

3. 理解する態勢という観点で見ると、読む活動は、読む主体の理解の度合いによって自在に読む早さを調節でき

る。これに対して聞く活動では、理解の早さを話し手の話の早さに合わせる努力が必要となる。

4. 2、3に関連するが、理解する過程という観点で見ると、読む活動では理解した個々の事象をまとめる活動の時間を適宜設けることができるし、前の部分に立ち返ってつながりを理解できる。これに対して聞く活動では特にある程度分量のある話を聞いたり、もしくは論理的にまとまった話を聞く場合、その話の構成をつかむためには、話を聞いてまとまりことに趣旨をつかむ認識活動を、聞き取る行為と同時進行で行っている。また聞き取った瞬時に理解する能力が必要である。話を聞く時にメモを取って文字として記録しないと細かい部分までの正確な理解がなかなか得られないというのはこの事情によるものと考えられる。

### 第四節 聞くことの指導

言語活動は、表現と理解という二つの活動から成り立っている。しかしその活動に必要な認識する力に注目してみると、人が表現したものを讀んだり聞くことを通して認識の方法や内容を習得し、それを書くことや話すことに活かしていくという形で高められていくものであると考える。そうであるならば、理解する能力を高めることが、表現する力をも高めていくことになる。

さて、その理解するという活動の目的は何であるのか。



それは自分が必要とする情報を得ることや、相手の考えを知ること、あるいはものごとの成り立ちやわけを知ること、といった、理解しようとする主体の必要や興味、好奇心を満たすことにあると考えられる。そして理解しようという欲求は、理解を通して自己認識を深め、高めたいという衝動から生まれてくると思う。

この考察と第三節での考察をふまえて聞くことの指導のありかたを考えてみると次の二点に注意をむけた指導が必要であると考ええる。

1. 聞くことの指導を意識的にする場合、学習者の、聞くこととする内的要求はなかなか生まれないので、より効果的に聞くことの能力を高めるために、この学習の意義を徹底させ、指導教材として学習者の興味を引く、または問題意識を喚起するものを選ぶなどして、学習者に、聞くことに集中する態度をつくらせて指導することが必要である。

2. 話の筋道を的確につかみながら聞き、話の趣旨を正しく掴む能力を高める指導が必要である。目標としては、頭の中で整理して正しい理解ができることであるが、指導の初期段階では、理解したことを書きとめさせたりする工夫が必要であろう。

## 第四章 話すこと・聞くことの指導の実践

### 第一節 話すこと・聞くことの取り立て指導

話すこと・聞くことの指導の実践に入ったのは、学習者が高校入学後少し高校生活に慣れてきた五月からであった。最初に指導したのが話すことの学習である。

(ねらい)

話すことの指導の第一段階として、話すまでの構想の練り方、また話す上で心掛けねばならない態度や姿勢のありかたを学ばせることをねらいとした。また、自分の話し方やその内容を客観的に振り返らせ課題を持たせることで今後自分の話す活動に絶えず意識を向けさせることもねらいとした。

(学習の目標)

1. 話す順序をあらかじめよく考えることができる。
2. 自分の考えや意見を筋道立てて話すことができる。
3. 他の人の話を聞き、それを評価することを通して、効果的な話し方について考えを深めることができる。

(指導内容)

まず、一人一人に話をさせる前に構想を練る時間を一時間設けて指導した。作業プリントを使って、一番主張した

二分間スピーチ 原稿

組 番 氏名

一、スピーチでいちばん主張したいこと（一文でまとめる）

二、自分をピ・アールするのに使う材料

- 三、どんな順番で話をすれば効果的か。
- (6) (5) (4) (3) (2) (1)

二分間スピーチ 原稿

組 番 氏名 佐藤 愛

一、スピーチでいちばん主張したいこと（一文でまとめる）

真面目に見られるけど、そんなことはない。

二、自分をピ・アールするのに使う材料

- ・部長をやっていたせいであって、こう強気な所がある。
- ・（自分から習字を取ったら特技がなくなる）
- ・生徒会書記をやっていたこと。

三、どんな順番で話をすれば効果的か。

- (1) 私の第一印象は「真面目そう」。
- (2) だけれど（習字）な所がある……
- (3) 真面目なことをしたり認めて……
- (4) だから、みんなと「こういうふう」に接していきたい……
- (5) じゃな、たけりて……、よろしくお願ひします。
- (6)



いこと、話の材料、話の順序を考えさせた。そしてこのプリントを回収し添削し、この段階で不十分なものには手掛かりを与え、再考させた。資料2に示したものがそのプリントと生徒の実例である。

国語1の授業は週5単位あるが、毎時間の授業のはじめ約10分間を話すことの指導にあて、一回に3人ずつ発表させた。発表者以外の生徒には評価票を与え、その評価票は回収して、授業終了後発表者に渡してやって客観的に振り返らせる材料とした。評価表は資料3に示したものである。この評価をさせるに当たっては、話を聞くポイントをはっきりさせた上で行った。

(反省と課題)

この指導は5月初めから6月初めまでの約一ヶ月間にわたった。実践してみても、自分の話し方をより客観的に振り返る学習指導の工夫の必要を反省材料として持った。具体的には、評価の内容を、いくつかの項目について評価させるのではなく、発表者の話をまとめさせる形にして、それを発表者に返してやって、自分の意図したことが正確に伝わっているか、もしズレがあれば、どういう点が悪かったのかを考えさせるものによればより効果があると思った。

資料3

二分間スピーチ評価

( ) さん

評価(たいへんよい・5 よい・4 ふつう・3 もうすこし・2)

一・声の大きさはどうか。	
二・話すスピードはどうか。	
三・表情、態度はどうか。	
四・言葉遣いはどうか。	
五・話は順序だったか。	
六・主張したいことがよくわかったか。	

## 第二節 聞くことの取り立て指導

(ねらい)

聞くことの学習は、前の指導の中の、発表を聞いて評価することで行われたことになるが、今度は聞くという活動に意識を集中させて、聞くことの能力を高める指導を行った。そのねらいは、話の構成が正しく理解でき、趣旨を的確にとらえる力を育てることにある。

(学習の目標)

1. 話の構成を的確にとらえることができる。
2. 話の趣旨を正しくとらえることができる。

(指導内容)

この指導にあてた時間は、話すことの指導と同じようにして設けた。私が2〜3分ぐらいの話をしてやり、生徒はそれをプリントにメモを取りながら聞くという形で行った。この指導は10回行ったが、題材は私が創作した話や、話して聞かせるのによさそうな文章から取材し、内容はことばに関するもので一貫させた。また、この学習では学習者が話を聞くことに意識が集中していることが重要なので、その態勢作りをしつかりさせてから話を始めることを心掛けた。話を聞き終わってから約3分間時間を設け、話の内容をまとめさせるとともに、自分が持った感想も書かせた。資料4に示したのがその作業プリントと生徒の実例である。

このプリントは回収し、理解の度合いを評価し、不十分であったものには寸評を加えて返却してやった。次時の授業で手短かに前時の学習の反省と課題を話し、一回ごとに能力が高まっていけるように指導に努めた。

(反省と課題)

この指導は6月上旬から7月上旬にかけて現国の時間(週2単位)に行った。事後指導に相当な時間がかかったが、生徒達は返却される自分のプリントを楽しみにしていて、次の聞くことへの意欲につながっていったのは望外のことであるがよかったことである。反省点としては、趣旨を取り違えてしまう生徒に対して、具体的にどういふ点に気をつけたらいいのかということが充分には指導できなかつたことである。

## 第三節 読解学習と並行したグループ発表の指導

後期の学習に入つてすぐに短歌・俳句の読解指導に入つたが、この単元の学習にグループ研究・発表を取り入れた。短歌・俳句の読解と鑑賞が勿論指導の一つの柱であったが、グループで調べ、作品分析したことを発表させるといふことをもう一つの柱とした。



(ねらい)

この学習では、まず各グループごとに調べたことをもとにその歌や句の解釈や鑑賞について討論させた。グループとしての統一した解釈や鑑賞にまとめ上げる過程で、他の人の意見と自分のそれとを対比させて、相違点を明らかにしながら討論できる力をつけるというのが発表までの準備作業の中のねらいである。

そして発表に当たっては、筋道立てて自分達の考えたことが発表できることをねらいとした。また、質問するグループも決めておいて質問させることでクラス全体の場で解釈と鑑賞をめぐって担当グループとその他の生徒による討論をさせることもねらった。

(指導内容)

まずグループ学習の時間を二時間設け、一時間は図書館を利用して各グループごとに調べさせ、もう一時間でグループ討論と発表までの準備をさせた。巡回指導をしてグループ討論があまり活発でないところは、解釈が分かれそうなところを指摘して考えさせたり、調べた本の中に鑑賞が載っていた歌や句については、どうしてこのような鑑賞文になるのか、歌や句に立ち返って考えさせたりして、活発になるように手立てを与えた。

発表の段階での授業展開は資料5に示した通りである。また資料6に示したのはグループの発表プリントである。

(反省と課題)

この指導は10月初めから行ったが、その間に教育委員会の合同訪問があり、この授業を研究授業として多くの先生がたに見ていただき高評がいただけた。自信を持たせていただいた点もあったが、その中から私が反省としたこともいくつかあった。時間の関係上、一時間に二つのグループに発表させたが、クラス全体の場で討論することによって考えを深めさせる活動の時間が少なかったことが反省の第一である。各グループとも一つの歌に絞って発表させればよりねらいが定まっただろうと反省している。また、発表の後で解釈の不十分な点などを指摘して、私が発問し答えさせてまとめとしたが、質疑応答の中で問題を示し、討論させ補っていかせる指導のほうかねらいを徹底できたように思う。

#### 第四章 論文指導を通しての構想の立てかたの指導

この指導は話すこととは直接には結びつかないが、書くことにせよ、話すことにせよ、構想を練る段階が重要であるという認識から行ったもので、間接的ではあるが話すこととの指導の一環と受け止めて指導した。

(ねらい)

先に指導した話すことの学習での構想を練る作業は、単純

教科別研究授業 学習指導案

教科	国語	科目	国語Ⅰ	指導者	藤吉和孝	クラス	1年7組
授業日時	平成2年11月7日(水) 第1時限			使用教室	1年7組 教室		
使用教科書	新設国語Ⅰ三訂版(尚学図書)			使用教材			
単元	近代の短歌・俳句			時間配当	5時間目(8時間)		
本時の目標	1.短歌に詠みこまれた情景や心情を、形象の相関関係ととらえてイメジ豊かにつかませる。 2.生徒たちに事前に調べ、観察させたことに、別の視点から切り込むことで、読解を深めさせる。 3.自分達が調べたことを筋道立てて話すこと、それを要点を押さえて聞くこと、能力を高めさせる。						
生徒工夫の視点	ただ単に自分達の手で解釈させるだけでなく、それを筋道立てて話すこと、聞くことに意識を向けさせる。						

学習展開

時間	内容	生徒の活動	指導上の留意点	評価の視点
導入 5分	本時の学習目標(上記の3つ)を明確にさせる。 本時に学習する作家(北原白秋・斎藤茂吉)について既知のことを確認し、興味を持たせる。	本時の学習目標を明確にする。 本時に学習する作家について知っていることをあつらえる。	本時に学習目標を明確にする。 学習する作家について今まで持っていた印象を引き出す。	
展開 35分	1.短歌(6首)範読のち一斉音読させる。 2.担当班(2つの班)の発表をさせる。 3.発表についての質疑応答をさせる。 4.発表・質疑応答について話し合い・聞き合いをさせる。 5.各作家の1首に注目し、形象の相関関係を考え、イメジ豊かに読みかたをさせる。 (1)北原白秋「春の鳥が鳴きそ〜」について ①文法事項を確認させる。 ②語のリズム感に気づかせる。 ③春の鳥が鳴きそと心情と「あかあか」「あかあか」のイメジと関連させてつかませる。 (2)斎藤茂吉「と赤き玄馬」について ①母の死に対する痛切な心情を、秋閑のイメジと断断表現や前半句のイメジと対比させてつかませる。	1.短歌の一斉音読をさせる。 2.担当班の生徒は、調べたことを筋道立てて話す。 (1)聞く側の生徒は、歌の感動の中心はどこにあるか説明の要点を押さえる。 3.発表を聞いて不明な点の質問や自分の解釈との相違点をあげる。発表者は、それについての考えを言う。 4.教師の指導を聞き、発表の仕方を工夫し、改善すべき点を考える。 5.教師の発問において、読みをイメジ豊かにする。 (1)北原白秋の1首を、イメジ豊かに読む。「あかあか」「あかあか」の文法的解釈と表現効果をつかむ。 ②「あかあか」によるリズム感をつかむ。 ③イメジの相関性から春の発音・音節の感情をつかむ。 (2)斎藤茂吉の1首をイメジ豊かに読む。 ①足利根の「たし」の文法的解釈と表現効果をつかむ。 ②イメジの相関性(対比)から、母の死に対する痛切な心情をつかむ。	事前に短歌を聴かせたしておく。 要点を押さえて読みかたを指示し、聞く側の生徒に説明を促すように指示する。 なるべく歌の内容にのめり込む質問を促す。 「話し合い」の次の活動から発言を促す。	リズム感のある音読が出来るか 筋道立てて要領よく話ができるか 要点を押さえて聞けるか 学習の目標は、同じようなことが出来るか。
総理 5分	1.本時に学習した短歌を朗読させる。 2.本時の学習のまとめをする。 3.次時の予告をする。	1.本時の短歌を朗読する。 2.本時の学習内容をプリントで確認する。 3.次時の学習内容を確認する。	感情を込めて読むように指示する。	感動が押しこめられた朗読が出来るか。

と高坪

資料

輶日聖美  
輿村佳正  
可恨長閑子  
第六班  
伊佐谷鳴美

近代の短歌・俳句・學習アリト 第六班

歌の解釈

○ 此亦玄鳥たる屋梁なる足紇根母にたはまかり

「語句玄鳥…つばめ 足紇根…母、根詞 屋梁…天上をさまる柱」

「場所前刺・季節 春 玄鳥」

「句切れ感動中心其物歌」

「鑑賞文臨終の母、把盃にかけつゝ天上の深き見しける」との赤いがい

の「正」は二羽、はの紀を與行するにともして、自食せんとく

した母は、今死んでいぬとてしるがた。

朝あけて船より鳴ゆる太鼓のたみに不しの姓母よるい

「語句 不笛…汽船で鳴りたまふ音の汽笛 姓母よるい…姓はにん

「場所前刺・季節 宿の半 朝」

「句切れ感動の心四切に交す時かし」

鑑賞文朝、目覚めると、船に停泊して、舟、木と長く汽笛を

そのひびき、港まへに山々にたゞまて長く尾を引いている上、

港からいんたに離れているのに、山も霧りにあふれ、舟でなんじ

遠くまで、まかに聞こえ、のたう、どう、汽笛のこゝろまじ、た

最上川近自來のたゞまて、はぶくゆかへ、せりにけるり

「場所前刺・風に吹らうたう鳥歌」

「鑑賞文冬、の最上川が逆風に引派が白く凍立つまでに吹雪まじめた

3句切れ感動の心四切の句切れし

「場所前刺・季節 冬 最上川の岸」

「鑑賞文冬、の最上川が逆風に引派が白く凍立つまでに吹雪まじめた

夕方にたゞまて、冬にたゞまてきたと、た。

有人の朝日聖美リ、汐を散歩して、物まな景色を散化

ひびき、汐、見なんでのいた景色、色、な、本郷、終り、花、り、た

まじりて、感動して、る、様子、が、よく、あつ、か、つ、い、る。

作者について

(作者名)有藤茂吉

(おもな作品)赤光「うたまひ」「寒霞」「白山」「雪鳥渡語」

(おもな活動)甲藤左平太に師事し、「アソビ」を編集に携わった。



に話の順序を考えさせることにとどまった。この指導では、論じようとするものに対して、通俗的、常識的ならえ方にとどまりがちな生徒の認識の力を深めていきながら、構想していく力をつけさせることをねらいとした。

#### (指導内容)

書くテーマを一週間前に知らせておき、実際に書かせる前に構想を練る時間を一時間設けた。一人一人巡回指導していきながら、考えを深めるべき点を指摘してやり、メモとして自分の考えを書きとめさせて考えを深めさせた。資料7に示したのは生徒に与えた作業プリントである。

#### (反省と課題)

この指導は、12月初めから1月初めにかけて行った。書く内容や話す内容の深まりは、対象となるものごとに対する認識の深まりと密接に結びついていると考えて一人一人の指導にあたったが、時間内にクラス全員を十分指導するのはなかなか困難であった。この課題は工夫できぬままになつて残っている。

### 第五節 教科外のクラス活動の中での話すことと聞くこととの指導

次に示す実践は、国語科の指導ではないので本筋からははずれるが、学校生活のあらゆる活動を通して、話すこと

と聞くことを指導することが生徒たちの意識を高め、能力も高めることになると考えてクラス運営も行ってきたので、ここにその指導のいくつかを記しておきたい。

#### ①LHRでのゲームを使ったグループ討論

話すこと、聞くことの考察で書いた通り、話そうという意欲や聞こうとする姿勢をどう作り出すか、という問題意識が出発点となつて行つた実践である。この指導を行つたのは一月中旬のLHRの時間である。ゲームの内容は左に示したものが、やってみると生徒たちの熱っぽい討論で教室の中はうるさいほどであった。そして授業の最後に私の案を述べたが、一心に聞き入っていた。

#### ②文化祭でのクラス活動を通した話す練習

私のクラスでは「ザ・緑日」と銘打って、金魚すくいや風船つりなどの屋台を五つ出すことにした。話すことの指導が頭から離れない私は、演劇にしようか、これにしようかと迷つたが、全校生徒を相手に、その関心を引き、この催しに参加してくれるように呼びかけるといふことは、話す上での身振りや表情や声の調子などを自然な形で練習する場になるのではないかと思つて取り組んだ。予想外に人が集まつて、生徒達は喜々として取り組んでいた。

材料リスト 組番

題名(区)

主題文

材料

一

二

三

四

五

六

七

構想メモ

1 上の材料リストのなかで、作文するときに使う材料

2 文章の組み立て

← ← ← ← ← ← ← ←

シート1



## 「冬山で遭難! さあどうする」

あなた方のパーティーは、厳冬期の北海道の2000m級の山系で雪崩のため、テントを押し流されてしまいました。

メンバー各自は、いわゆる行動装備、すなわちアノラック、オーバーズボンおよび防寒用手袋などは着用していますが、次にかかげるもの以外の装備は、すべて失われてしまいました。幸い怪我人は1人もいませんでした。メンバーは、この山系についての地理を、事前勉強によってある程度は把握しています。2日前から悪天候が続いており、当日の視界は数mしかありません。

課題は、このパーティーが生きのびる（救援を待つか、自力脱出の機会を待つか）ための重要度に応じて、下記の物品に順位をつけることです。最も重要なものを「1」とし、いちばん役に立たないものを「15」というように全品目に順位をつけてください。また理由の欄に自分でわかる程度にそれぞれの品目ごとの理由を記入しておいてください。

順位	理由
( ) 3cmのオレンジ色の紙テープ30m	( )
( ) 替え手袋7組	( )
( ) 中太ローソク5本	( )
( ) 懐中電灯2個	( )
( ) チョコレート(中)5枚	( )
( ) 磁石(コンパス)1個	( )
( ) 30cm×45cmのビニール袋5枚	( )
( ) マッチ1箱	( )
( ) 米3kg	( )
( ) 2万5000分の1の地形図	( )
( ) ノコギリ(大)1本	( )
( ) 1.8m×3.6mのマット1枚	( )
( ) 非常食10食分	( )
( ) 使い捨てカイロ5個	( )
( ) 替え靴下7足	( )

\*同じ順位はつけないでください。

グループ集計表										
グループ名										
氏名  品目	個人の決定								グループの決定	冬山専門家の決定
	1	2	3	4	5	6	7	8		
	誤差	誤差	誤差	誤差	誤差	誤差	誤差	誤差	誤差	
3cmのオレンジ色の紙テープ30m										
替え手袋7組										
中太ローソク5本										
懐中電灯2個										
チョコレート(中)5枚										
磁石(コンパス)1個										
30cm×45cmのビニール袋5枚										
マッチ1箱										
米3kg										
2万5000分の1の地形図										
ノコギリ(大)1本										
1.8m×3.6mのマット1枚										
非常食10食分										
使い捨てカイロ5個										
替え靴下7足										
誤差総計										グループメンバーの平均誤差

### ③ 学校通信を使つた読み聞かせ

私は四月から毎日学級通信を発行してきた。恥ずかしなから一部を後に示した(資料9)。毎朝SHRを有効に活用したい、そして生徒の心に響くものを一つでも伝えたいと思つて続けているうちに二〇〇号を裕に越えそうなことになった。毎朝これを使つて話をしてやり、少しでも人の話しを聞いて考える習慣が身についてくれれば、という願いも持つて発行してきた。

## 第五章 全体の反省と課題

私は今年度国語Iの教科書の中で以上のように話すこと、聞くことの指導をしてきた。そして一つ一つの具体的な実践の中で得たものも多いが、課題とすべきことがらも山積みになっている。しかし一つ一つの指導から派生して、私自身が学んだことや学習者である生徒が身につけたこともあった。

私は今回の指導を通して、授業を展開していく中での発問のあり方、そして発問に対する生徒の対処の仕方を変えて見直すことができた。具体的には、授業の中で、生徒に作業させたり、考えさせたりする場と発問を仕掛ける場をきちんと区別して、発問を聞くことに集中できる態勢を作らせることを心掛けた。また、特に現代国語の読解において、発問に対してきちんと筋道立てて答えさせることに意

を配ることができた。求める答として不十分であったりした時に、応々にして私がそれを補つてやつて授業の流れを優先させがちであったが、不十分な答え方や考えのままたまらない応答には、時には突っぱねるような形で受け付けないで、きちんと筋道立てて話させることを心掛けた。

また、生徒の取り組みについて言えば、指導していくに従つてきちんと話をしようという意識の高まりが一つ一つの答え方の中に反映されだした。そして指示や発問を聞く姿勢も向上がみられた。

話すこと、聞くことを取り立てて指導したのは今年度が初めてであり、たった一年間の指導に過ぎないので、今後の課題は当然いくつもある。特に話すこと、聞くことの学習をいかに系統立てていくか、ということはこの学習の到達目標を明確にしていくことと併せて考えていくべき課題の第一である。

また、今回は現代文の分野での指導が中心であったが、古典分野での指導のありかたも考えなければならぬと思つている。本文の朗読に力を入れ、音声から古典に慣れ親しむ学習は一貫して行ってきたし、発問と応答による話すこと、聞くことの学習は怠らなかつたつもりである。しかし、それ以外での指導のありかたにはどんなものが考えられるかということは今後の課題として考えていきたい。

(岐阜県立東濃高等学校教諭)

